

3. 事業報告書

事業報告書

令和7年度（令和7年4月1日から令和8年3月31日まで）

(1) 農作物共済関係

(引受)

項目 区分	支所名	組合員数	引受面積	引受収量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A) ± (B)
水 稲		人	a	kg	円	円	円	円
	東 部	2,343	151,130	5,935,257	1,107,814,272	1,415,734		
	中 部	1,832	140,326	5,646,805	1,027,649,272	1,212,401		
	西 部	2,025	236,045	8,720,366	1,516,063,710	1,744,877		
	合 計	6,200	527,501	20,302,428	3,651,527,254	4,373,012	2,923,185	7,296,197

引受の状況

県内水稲作付面積 10,500ha 程（対前年比 101.9%、中国四国農政局）のうち、離農や収入保険への移行により引受面積は 5,275ha（引受率 51.2%・対前年比 57ha 減少）となった。
引受戸数は 6,200 戸（実）で対前年比 257 戸の減少となったが、インデックス方式への移行もあり共済金額は 36 億 5,100 万円で対前年比 1 億 8,000 万円の増となった。

(被害)

項目 区分	支所名	被害組合員数	共済金	$\frac{\text{共済金}}{\text{共済金額}}$
水 稲		人	円	%
	東 部	34	1,456,377	0.1%
	中 部	52	2,326,426	0.2%
	西 部	140	7,844,368	0.5%
	合 計	226	11,627,171	0.3%

被害の状況

(1) 早期稲

5 月から 7 月にかけての大雨で土砂の流入や倒伏発芽等が発生した。病害では、イモチ病が県下全域で発生した。虫害では、スクミリンゴガイによる食害が広範囲に渡って発生し、皆無の圃場も発生した。獣害では、猪や鹿による食害や踏み荒らしにより皆無となる圃場もあった。7 月から 8 月にかけての酷暑の影響により不稔等が発生したほか、水不足により中部支所と幡多事業所管内で干害が発生した。

(2) 普通期稲

8月から9月にかけての大雨で倒伏発芽が発生した。病害では、イモチ病が県下全域で発生した。虫害では、スクミリンゴガイが発生し、一部地域でウンカによる被害が発生した。獣害では、猪や鹿による食害や踏み荒らしにより皆無となる圃場もあった。7月から8月にかけての酷暑の影響により不稔等が発生した。

(支払)

項目 区分	支所名	支払月日	実支払 共済金	共済金支払財源					実支払共済金 共済金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
水 稲	東 部	R7. 12. 23	円 1,456,377	円	円	円	円	円	%
		R8. 2. 6	0						
		小 計	1,456,377						
	中 部	R7. 12. 23	2,326,426						
		R8. 2. 6	0						
		小 計	2,326,426						
	西 部	R7. 12. 23	7,303,480						
		R8. 2. 6	540,888						
		小 計	7,844,368						
	合 計		11,627,171	0	7,296,197	4,330,974	0	0	100

(2) 家畜共済関係
(引受)

項目 区分		支所名	引受 頭数	共済金額	徴収共済 掛金	納入 保険料	交付金	手持共済 掛金
死亡廃用共済	搾乳牛	東 部	頭 470	円 57,660,950	円 1,784,136	円	円	円
		中 部	1,406	215,439,150	6,508,056			
		西 部	593	96,624,850	2,902,620			
		計	2,469	369,724,950	11,194,812			
	繁殖用 雌牛	東 部	271	34,674,150	253,709			
		中 部	713	115,700,900	740,584			
		西 部	616	137,870,100	1,137,559			
		計	1,600	288,245,150	2,131,852			
	育成乳牛 (子牛等)	東 部	209					
			21	25,090,650	263,424			
		中 部	741					
			117	139,466,050	1,711,865			
		西 部	296					
			11	45,461,050	315,129			
	育成・ 肥育牛 (子牛等)	計	1,246					
			149	210,017,750	2,290,418			
		東 部	802					
			99	144,797,600	1,465,005			
	育成・ 肥育馬	中 部	2,273					
			393	537,305,900	4,698,752			
		西 部	3,626					
			205	850,964,250	6,319,338			
	種豚	計	6,701					
			697	1,533,067,750	12,483,095			
		東 部	0					
			0	0	0			
	肉豚	中 部	0					
			0					
		西 部	19,852	317,632,000	36,827,797			
		計	19,852	317,632,000	36,827,797			
	種雄牛	中 部	0					
		計	0					
	計		34,316					
疾病傷害共済	乳用牛		頭 521	円 22,935,111	円 4,351,821			
		東 部	24					
		中 部	1,333	65,291,859	9,854,245			
		西 部	662	28,356,576	4,872,434			
		計	2,516					
			112	116,583,546	19,078,500			
	肉用牛	東 部	761					
			99	15,601,274	1,813,385			
		中 部	1,731	42,855,563	3,871,485			
		西 部	2,407	60,361,690	6,824,811			
		計	4,899					
	一般馬		636	118,818,527	12,509,681			
		東 部	0					
		計	0	0	0			
	種豚	東 部	0					
		中 部	0					
		西 部	0					
	種雄牛	計	0					
		中 部	0					
		計	0					
	計		7,415					
	当年度共済掛金 (引受終了)		748	235,402,073	31,588,181			
	過年度共済掛金				▲ 68,863			
	合計		41,731					
			1,594	3,170,191,273	98,154,588	0	84,172,893	182,327,481

※引受頭数の上段は成牛、下段は子牛等

引受の状況

(死亡廃用共済)

酪農家は、高齢・担い手不足により3戸が廃業し、引受戸数30戸（対前年比90.9%）となるが、引受頭数は搾乳牛の区分で56頭減少し、育成乳牛は交雑種の子牛取引価格上昇により174頭増加した。

肉牛生産農家は、高齢化や飼料高騰による廃業が5戸あったため酪農経営の肉用子牛の加入を含め、引受戸数が111戸（対前年比95.7%）となった。引受頭数は繁殖用雌牛で60頭、育成・肥育牛は100頭減少した。

豚については、肉豚で19,852頭と前年と比べて1,836頭減少した。

(疾病傷害共済)

死亡廃用共済と同様の理由により乳用牛の引受戸数は30戸（対前年比90.9%）となった。引受頭数は2,628頭（対前年比98.5%）と41頭減となったが、個体評価額の上昇により共済金額は808万円増の1億1,658万円となった。肉用牛の引受戸数は111戸（対前年比93.3%）となった。引受頭数は5,535頭（対前年比100.3%）で、前年に比べ19頭増加し、共済金額は355万円減の1億1,881万円となった。

(事故)

区分	項目 支所名	死 亡 廃 用 共 済			
		死亡 頭数	廃用 頭数	総頭数	支払共済金 円
搾乳牛	東 部	34	3	37	3,306,409
	中 部	131	1	132	17,723,281
	西 部	33	5	38	4,181,187
	計	198	9	207	25,210,877
繁殖用雌牛	東 部	7	1	8	1,000,300
	中 部	14	0	14	2,911,400
	西 部	5	1	6	1,159,300
	計	26	2	28	5,071,000
育成乳牛 (子牛等)	東 部	3			
		8	0	11	406,200
	中 部	3			
		52	0	55	1,493,000
	西 部	0			
		1	0	1	63,000
	計	67	0	67	1,962,200
育成・肥育牛 (子牛等)	東 部	11			
		40	1	52	2,306,646
	中 部	17			
		135	1	153	9,946,000
	西 部	27			
		48	0	75	8,445,300
	計	278	2	280	20,697,946
繁殖用雌馬	西 部	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
育成・肥育馬	西 部	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
種豚	東 部	0	0	0	0
	中 部	0	0	0	0
	西 部	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
肉豚	東 部	0	0	0	0
	中 部	0	0	0	0
	西 部	3,429	0	3,429	47,899,414
	計	3,429	0	3,429	47,899,414
種雄牛	東 部	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
種雄馬	西 部	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
過年度共済金					765,460
計		3,998	13	4,011	101,606,897

区分	項目 支所名	疾 病 傷 害 共 済	
		件数	支払共済金 円
乳用牛	東 部	641	9,768,959
	中 部	1,138	20,742,678
	西 部	496	8,658,342
	計	2,275	39,169,979
肉用牛	東 部	444	5,641,297
	中 部	1,004	7,074,554
	西 部	1,214	14,724,935
	計	2,662	27,440,786
一般馬	西 部	0	0
	計	0	0
種豚	東 部	0	0
	中 部	0	0
	西 部	0	0
	計	0	0
種雄牛	東 部	0	0
	計	0	0
種雄馬	西 部	0	0
	計	0	0
計		4,937	66,610,765

※死亡欄の上段は成牛、下段は子牛及び胎児

事故の状況

(死産事故)

搾乳牛及び育成乳牛：事故頭数は昨年度より 77 頭減少（対前年比 78.1%）し、支払共済金は 578 万円減少した。

繁殖用雌牛及び育成・肥育牛：事故頭数は昨年度より 52 頭減少（対前年比 85.6%）し、支払共済金は 129 万円減少した。

肉豚：死亡事故は豚舎の建て替えの理由で加入頭数が減少し昨年度より 1,602 頭減少の 3,429 頭となり、支払共済金は 866 万円減少した。

(病傷事故)

乳用牛の区分において、事故件数は 2,275 件（対前年比 92.0%）と 197 件減少、支払共済金は約 572 万円（対前年比 87.3%）減少した。また、肉用牛の区分においては、事故件数は 2,662 件（対前年比 104.4%）で 112 件増加し、共済金は約 299 万円（対前年比 112.3%）増加した。

(損害防止)

実施種目		支所名	対象頭数	経費概算	摘要
特定損害防止		東部	0	0	実施なし
		中部	0	0	
		西部	0	0	
一般損害防止	予防衛生措置	東部	0	0	実施なし
		中部	0	0	
		西部	0	0	
		合計	0	0	

(診療所)

診療所名	職員数	管内		診療件数		損害防止事業			摘要
		有資格頭数	加入頭数	共済事故	事故外	一般	特損	経費概算	
家畜診療所 (いの)	6	8,643	7,515	3,242	344	0	0	0	損害防止事業 実施なし
家畜診療所 (高幡センター・幡多センター)	5	5,350	5,347	1,695	1,720	0	0	0	
計	11	13,993	12,862	4,937	2,064	0	0	0	

(3) 果樹共済関係

(引受)

年度	果樹区分	支 所 名	組合員数 人	引受面積 a	共済金額 円	徴収共済掛金 (A) 円	交付金又は納入 保険料 (B) 円	手持共済掛金 (A) ± (B) 円
令和 5年度	うんしゅうみかん 半相殺方式 (6年産)	東 部	1	7.6	60,000	64	36	100
	うんしゅうみかん 全相殺方式 (6年産)		8	105.8	31,078,000	85,052	82,576	167,628
	指定かんきつ 半相殺方式 (7年産)		6	234.9	7,838,000	73,998	72,686	146,684
	指定かんきつ 災害収入共済方式 (7年産)	東 部	11	513.4	18,098,000	165,909		
		西 部	3	219.1	5,495,000	32,696		
		計	14	732.5	23,593,000	198,605	149,463	348,068
	計		29	1,080.8	62,569,000	357,719	304,761	662,480
令和 6年度	うんしゅうみかん 半相殺方式 (7年産)	東 部	1	8.0	193,000	206	114	320
	うんしゅうみかん 全相殺方式 (7年産)		8	98.8	28,152,000	76,021	73,798	149,819
	指定かんきつ 半相殺方式 (8年産)		6	213.1	7,827,000	69,255	68,006	137,261
	指定かんきつ 災害収入共済方式 (8年産)	東 部	11	518.4	18,990,000	162,260		
		中 部	2	29.5	547,000	5,632		
		西 部	2	112.9	2,204,000	16,994		
		計	15	660.8	21,741,000	184,886	139,142	324,028
	計		30	980.7	57,913,000	330,368	281,060	611,428
令和 7年度	うんしゅうみかん 半相殺方式 (8年産)	東 部	1	8.2	204,000	136	44	180
	うんしゅうみかん 全相殺方式 (8年産)		6	89.8	26,749,000	23,875	21,455	45,330
	指定かんきつ 半相殺方式 (9年産)		5	190.9	8,711,000	35,379	32,537	67,916
	指定かんきつ 災害収入共済方式 (9年産)	東 部	11	520.4	20,199,000	65,516		
		中 部	2	74.2	746,000	2,131		
		西 部	2	112.9	2,265,000	6,867		
		計	15	707.5	23,210,000	74,514	5,190	79,704
	計		27	996.4	58,874,000	133,904	59,226	193,130

引受の状況

うんしゅうみかん・半相殺減収総合一般方式は、引受面積 8.2a (対前年比 0.2a 増) となった。

うんしゅうみかん・全相殺減収総合方式は、引受戸数 6 戸 (対前年比 2 戸減)、引受面積 89.8a (対前年比 9.0a 減) となった。

指定かんきつ (ぽんかん)・半相殺減収総合一般方式は、引受戸数 5 戸 (対前年比 1 戸減)、引受面積 190.9a (対前年比 22.2a 減) となった。

指定かんきつ (ゆず)・災害収入共済方式は、引受面積 707.5a (対前年比 46.7a 増) となった。

(被害)

果樹区分	支所名	被害組合員数	共済金	共済金 共済金額
		人	円	%
計				

被害の状況

○支払い対象事故はなかった。

(支払)

果樹区分	支所名	支払年月日	実支払 共済金	共済金支払財源					実支払共済金 共済金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
			0	0	0	0	0	0	
計		-	0	0	0	0	0	0	

(4) 畑作物共済関係

(引受)

年度	項目 畑作物区分	支所名	組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A) ± (B)
			人	a	円	円	円	円
6	茶	中 部	6	160.5	816,000	8,688		
		西 部	17	300.5	1,621,000	15,249		
		計	23	461.0	2,437,000	23,937	▲ 4,575	19,362
7	茶	中 部	4	110.5	624,000	4,848		
		西 部	13	209.9	881,000	7,496		
		計	17	320.4	1,505,000	12,344	▲ 4,315	8,029

引受の状況

高齢化による離農及び栽培面積減少により、引受戸数17戸(対前年比6戸減)、引受面積320.4a(対前年比140.6a減)となった。

(被害)

畑作物区分	項目	支所名	被害組合員数	共 済 金	金額被害率
			人	円	%
茶		中 部	3	121,773	14.9
		計	3	121,773	5.0

被害の状況

令和7年4月から5月にかけての気温の低下により新芽の成長が悪く収穫量が減少した。

(支払)

畑作物区分	項目	支所名	支払月日	実支払 共済金	共済金支払財源					実支払共済金
					保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	共済金
茶		中部	R7.11.13	121,773	円 69,068	円 19,362	円 33,343	円 0	円 0	% 100
		計		121,773	69,068	19,362	33,343	0	0	100

(5) 園芸施設共済関係

(引受)

施設区分	項目 支所名	組員数	引受棟数	設置面積	共済価額	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金 (B)	手持共済掛金 (A) + (B)
		人	棟	a	千円	千円	円	円	円
10 ガラス木造	東 部	0	0	0.0	0	0	0		
	中 部	0	0	0.0	0	0	0		
	西 部	0	0	0.0	0	0	0		
	計	0	0	0.0	0	0	0		
20 ガラス鉄骨	東 部	6	6	48.3	71,455	60,706	64,572		
	中 部	16	31	183.2	345,670	302,440	226,088		
	西 部	1	1	10.0	17,504	14,003	6,971		
	計	23	38	241.5	434,629	377,149	297,631		
30 木 造	東 部	100	167	922.0	400,235	345,311	1,953,718		
	中 部	265	437	5168.5	2,428,844	2,121,412	7,378,756		
	西 部	3	4	60.6	50,072	40,058	105,652		
	計	368	608	6,151.1	2,879,151	2,506,781	9,438,126		
40 パ イ プ	東 部	99	367	974.1	365,421	303,768	3,054,741		
	中 部	44	75	125.2	49,794	43,489	458,181		
	西 部	35	90	177.8	63,486	52,598	501,126		
	計	178	532	1,277.1	478,701	399,855	4,014,048		
50 A P	東 部	1,665	3,632	42490.1	40,297,485	35,270,514	93,141,558		
	中 部	931	2,002	20915.4	18,010,111	15,573,132	39,816,818		
	西 部	525	971	10780.9	9,590,207	8,287,010	20,960,672		
	計	3,121	6,605	74,186.4	67,897,803	59,130,656	153,919,048		
61 鉄骨(軟質)	東 部	640	972	12417.5	21,232,197	18,892,216	33,185,233		
	中 部	345	557	6894.5	9,749,563	8,544,038	11,757,497		
	西 部	185	277	3898.9	5,508,723	4,745,827	7,077,818		
	計	1,170	1,806	23,210.9	36,490,483	32,182,081	52,020,548		
62 鉄骨(硬質)	東 部	105	178	2809.8	6,016,108	5,231,765	7,582,567		
	中 部	228	346	5389.3	10,064,142	8,640,321	11,889,822		
	西 部	26	29	395.2	664,880	597,939	889,547		
	計	359	553	8,594.3	16,745,130	14,470,025	20,361,936		
70 鉄骨MMA	東 部	38	57	687.1	1,400,014	1,199,711	1,542,488		
	中 部	47	65	531.6	715,159	612,087	746,330		
	西 部	35	43	694.2	1,480,765	1,339,072	1,940,442		
	計	120	165	1,912.9	3,595,938	3,150,870	4,229,260		
80 雨 よ け	東 部	0	0	0.0	0	0	0		
	中 部	3	11	12.6	5,254	4,203	57,572		
	西 部	7	53	57.5	11,914	11,181	132,169		
	計	10	64	70.1	17,168	15,384	189,741		
90 ネ ッ ト	東 部	0	0	0.0	0	0	0		
	中 部	0	0	0.0	0	0	0		
	西 部	0	0	0.0	0	0	0		
	計	0	0	0.0	0	0	0		
合 計	東 部	2,096	5,379	60,348.9	69,782,915	61,303,991	140,524,877		
	中 部	1,324	3,524	39,220.3	41,368,537	35,841,122	72,331,064		
	西 部	667	1,468	16,075.1	17,387,551	15,087,688	31,614,397		
	計	4,087	10,371	115,644.3	128,539,003	112,232,801	244,470,338		
	過 年 度						82,781		
	合 計	4,087	10,371	115,644.3	128,539,003	112,232,801	244,553,119	118,658,127	363,211,246

引受の状況

高齢化・資材高騰による廃業、耕作の休止等に伴い、令和7年度は棟数10,371棟（対前年比97.6%）、面積115,644a（同98.6%）と減少し、戸数も4,087戸（同97.6%）と減少した。共済金額は、61型・62型を中心に高額な鉄骨ハウスの新規加入があったことから、1,122億3,280万円（同99.9%）とほぼ前年並みとなった。

撤去費用の加入は、棟数9,666棟（同97.7%）、共済金額79億7,356万円（同99.0%）、復旧費用の加入は、棟数5,924棟（同99.3%）、共済金額307億9,142万円（同102.2%）となった。付保割合追加特約は、選択棟数が3,535棟（同100.1%）となった。

棟数加入率は、撤去費用が93.2%、復旧費用が57.1%、付保割合追加特約が34.1%となった。

(被害)

施設区分	項目 支所名	被 害			損害の額	支 払 共 済 金							金額 被害率
		組 合 員 数	棟 数	附 帯 施 設 数		特定園芸施設	附 帯 施 設	施設内農作物	撤 去 費 用	特定園芸施設 復旧費用	附帯施設 復旧 費 用	合 計	
10 ガラス木造	東 部	人	棟	基	円	円	円	円	円	円	円	円	%
	東 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	中 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	西 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
20 ガラス鉄骨	東 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	中 部	1	1	1	41,250	0	41,250	0	0	0	0	41,250	0.01
	西 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	計	1	1	1	41,250	0	41,250	0	0	0	0	41,250	0.01
30 木 造	東 部	9	13	3	4,782,642	1,979,387	1,457,842	373,259	48,000	273,160	233,093	4,364,741	1.26
	中 部	9	14	0	2,140,753	234,800	0	1,486,849	0	0	0	1,721,649	0.08
	西 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	計	18	27	3	6,923,395	2,214,187	1,457,842	1,860,108	48,000	273,160	233,093	6,086,390	0.24
40 パ イ プ	東 部	11	11	0	2,851,667	2,305,584	0	0	0	0	0	2,305,584	0.76
	中 部	1	1	0	84,385	67,508	0	0	0	0	0	67,508	0.16
	西 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	西部(R6)	2	2	0	909,620	480,452	0	0	33,060	396,106	0	909,618	0.82
	計	14	14	0	3,845,672	2,853,544	0	0	33,060	396,106	0	3,282,710	0.82
50 A P	東 部	190	305	68	62,386,903	26,651,474	9,475,048	10,082,796	0	1,328,120	4,557,510	52,094,961	0.15
	東部(R6)	16	18	35	19,644,760	1,581,319	2,653,665	16,241	0	2,653,715	2,630,141	9,535,081	0.08
	中 部	77	103	7	15,418,724	3,805,290	355,248	8,393,431	0	104,352	135,530	12,793,851	0.08
	中 部(R6)	2	2	2	199,898	0	176,979	0	0	0	15,279	192,258	0.09
	西 部	37	54	6	8,367,410	4,466,278	794,013	1,892,080	0	38,186	119,378	7,309,935	0.09
61 鉄骨(軟質)	計	322	482	118	106,017,695	36,504,374	13,454,953	20,384,548	0	4,124,373	7,457,838	81,926,086	0.14
	東 部	58	68	48	16,908,722	2,609,182	6,687,970	1,602,265	0	0	4,560,519	15,459,936	0.08
	東部(R6)	6	6	6	1,329,777	446,049	593,442	0	0	0	130,619	1,170,110	0.03
	中 部	16	19	7	2,534,350	810,809	400,643	655,235	0	0	337,125	2,203,812	0.03
	西 部	14	16	3	2,219,920	684,853	360,901	526,073	0	0	291,296	1,863,123	0.04
62 鉄骨(硬質)	計	94	109	64	22,992,769	4,550,893	8,042,956	2,783,573	0	0	5,319,559	20,696,981	0.06
	東 部	4	4	4	734,614	49,523	598,405	0	0	0	63,305	711,233	0.01
	中 部	9	12	6	1,257,713	188,486	673,103	277,675	0	0	25,223	1,164,487	0.01
	西 部	3	4	3	676,724	66,563	474,816	0	0	0	0	541,379	0.09
	計	16	20	13	2,669,051	304,572	1,746,324	277,675	0	0	88,528	2,417,099	0.02
70 鉄骨MMA	東 部	3	5	3	1,973,720	34,003	775,886	0	0	0	775,886	1,585,775	0.13
	東部(R6)	1	1	1	777,076	276,027	250,523	0	0	0	250,523	777,073	0.13
	中 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	西 部	1	1	1	155,784	0	77,891	0	0	0	77,891	155,782	0.01
	計	5	7	5	2,906,580	310,030	1,104,300	0	0	0	1,104,300	2,518,630	0.08
80 雨 よ け	東 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	中 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	西 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
90 ネ ッ ト	東 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	中 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	西 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
合 計	東 部	275	406	126	89,638,268	33,629,166	18,995,151	12,058,320	48,000	1,601,280	10,190,313	76,522,230	0.13
	東部(R6)	23	25	42	21,751,613	2,303,395	3,497,630	16,241	0	2,653,715	3,011,283	11,482,264	0.05
	中 部	113	150	21	21,477,175	5,106,893	1,470,244	10,813,190	0	104,352	497,878	17,992,557	0.05
	中 部(R6)	2	2	2	199,898	0	176,979	0	0	0	15,279	192,258	0.07
	西 部	55	75	13	11,419,838	5,217,694	1,707,621	2,418,153	0	38,186	488,565	9,870,219	0.07
合 計	西部(R6)	2	2	0	909,620	480,452	0	0	33,060	396,106	0	909,618	0.10
	計	470	660	204	145,396,412	46,737,600	25,847,625	25,305,904	81,060	4,793,639	14,203,318	116,969,146	0.10

被害の状況

令和7年度は、9月5日に高知県に上陸した台風15号の影響により、県中東部を中心に被覆材・本体の被害が発生した。それ以外に台風の接近・上陸はなかったが、突風等の局地的な災害が見られたほか、落雷による附帯施設への被害、ナス・キュウリ等の施設内農作物への病害が発生した。

全体としては大きな災害は少なく、実被害戸数470戸（対前年比93.4%）、被害棟数660棟（同94.3%）、支払共済金1億1,696万円（同97.8%）となった。このうち、復旧費用共済金については、1,899万円（うち附帯施設復旧費用1,420万円）の支払いとなった。

(支払)

実支払共済金	共 済 金 支 払 財 源					共済金支払率
	保 険 金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	そ の 他	
円	円	円	円	円	円	%
116,969,146	4,205,021	110,890,710	0	0	1,873,415	100

（６）任意共済関係

1. 建物共済

（引受関係）

項目 区分	支所名	加入棟数	共済金額	共済掛金		1棟当たり平 均共済金額	再共済掛金及び 任意保険料	再共済手数料 及び保険手数料
				純共済掛金	賦課金			
火災		棟	千円	円	円	千円	円	円
	東 部	9,604	80,034,420	37,929,773	30,959,078	8,333		
	中 部	7,988	62,678,090	33,331,127	27,201,948	7,847		
	西 部	10,954	85,997,150	42,708,028	34,833,047	7,851		
	計	28,546	228,709,660	113,968,928	92,994,073	8,012		
総合	東 部	4,055	25,502,520	62,542,392	13,908,929	6,289		
	中 部	1,771	14,537,790	36,808,062	8,260,467	8,209		
	西 部	2,279	18,573,490	45,244,030	10,025,672	8,150		
	計	8,105	58,613,800	144,594,484	32,195,068	7,232		
合計	東 部	13,659	105,536,940	100,472,165	44,868,007	7,727		
	中 部	9,759	77,215,880	70,139,189	35,462,415	7,912		
	西 部	13,233	104,570,640	87,952,058	44,858,719	7,902		
	計	36,651	287,323,460	258,563,412	125,189,141	7,839	134,956,604	34,009,954

総共済掛金額 383,752,553 円、保険割合 地震 50%・地震以外 30%

引受の状況

火災共済では、農家の高齢化や死亡、離農、他保険への加入等の理由により棟数は 28,546 棟（対前年比 1,048 棟減少、96.5%）、共済金額は、2,287 億円（同 78 億円減少、96.7%）となった。

総合共済では、棟数は 8,105 棟（対前年比 122 棟減少、98.5%）、共済金額は 586 億円（同 2 億円増、100.4%）と度重なる地震被害の影響もあり、僅かに増加した。

(事故関係)

支所名	事故棟数	支払対象者総共済 金額 (イ)	支払共済金 (ロ)		再共済金及び 任意保険金	被害率 $\frac{(ロ)}{(イ)}$	備考
			火災等	自然災害			
	棟	千円	円	円	円	%	
東 部	52	432,550	7,049,953	1,920,820	2,691,215	2.07	
中 部	17	172,440	712,216	2,365,081	923,180	1.78	
西 部	21	237,750	31,941,620	1,130,685	9,921,686	13.91	
計	90	842,740	39,703,789	5,416,586	13,536,081		

(原因別事故発生状況)

事故の原因別	事故棟数	支払対象者総共 済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)	再共済金及び 任意保険金	被害率 $\frac{(ロ)}{(イ)}$	備考
	棟	千円	円	円	%	
火 災	4	37,090	30,686,683	9,206,004	82.7	
風 水 害	12	97,790	1,763,380	529,011	1.8	
落 雷	37	363,430	7,240,584	2,172,164	2.0	
水 道 管 凍 結	1	15,000	76,320	22,896	0.5	
そ の 他	36	329,430	5,353,408	1,606,006	1.6	
計	90	842,740	45,120,375	13,536,081		

被害の状況

令和7年度は、被害棟数90棟、支払共済金4,512万円となった。
原因別事故棟数は、落雷が37棟、次いで雪害が18棟、風水害が12棟であった。
支払額でみると火災による事故が3,069万円と全体の68%を占めた。

2. 農機具共済

(引受関係)

項目 区分	組合名	加入台数	共済金額	共済掛金		1台当たり 平均共済金額
				純共済掛金	賦課金	
火災		台	千円	円	円	千円
	東 部	314	362,080	322,008	169,432	1,153
	中 部	196	182,560	144,911	79,149	931
	西 部	660	568,580	408,746	248,760	861
	計	1,170	1,113,220	875,665	497,341	951
総合	東 部	1,725	3,356,070	13,434,596	2,694,584	1,946
	中 部	1,053	2,136,540	8,782,935	1,767,975	2,029
	西 部	1,560	3,475,510	13,037,794	2,763,606	2,228
	計	4,338	8,968,120	35,255,325	7,226,165	2,067
合計	東 部	2,039	3,718,150	13,756,604	2,864,016	1,824
	中 部	1,249	2,319,100	8,927,846	1,847,124	1,857
	西 部	2,220	4,044,090	13,446,540	3,012,366	1,822
	計	5,508	10,081,340	36,130,990	7,723,506	1,830

引受の状況

火災共済の引受台数は、1,170 台（対前年比 14 台増、101.2%）で、共済金額は、11 億 1,322 万円（同 3,313 万円増、103.1%）となった。

総合共済では、引受台数 4,338 台（対前年比 275 台増、106.8%）、共済金額 89 億 6,812 万円（同 7 億 7,600 万円増、109.5%）となった。

(事故関係)

支所名	事故台数	支払対象者総共 済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)	被害率 $\frac{(ロ)}{(イ)}$	備考
	台	千円	円	%	
東 部	49	180,560	6,197,227	3.43	
中 部	33	81,480	2,961,880	3.64	
西 部	44	155,780	5,713,376	3.67	
計	126	417,820	14,872,483		

(原因別事故発生状況)

事故の原因別	事故台数	支払対象者総共 済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)	被害率 $\frac{(ロ)}{(イ)}$	備考
	台	千円	円	%	
衝 突 ・ 接 触	89	321,610	9,595,314	2.98	
異 物 の 巻 き 込 み	23	44,740	2,522,222	5.64	
墜 落 ・ 転 落	4	16,180	354,138	2.19	
落 雷	2	2,390	915,772	38.32	
自 然 災 害	0	0	0	0	
獣 害	4	23,200	169,324	0.73	
そ の 他	4	9,700	1,315,713	13.56	
計	126	417,820	14,872,483		

被害の状況

事故台数 126 台、支払共済金 1,487 万円となり、支払共済金は昨年度より若干増加した。

原因別では、衝突・接触の支払いが最も多く、支払共済金は 960 万円 (89 台)、次いで異物の巻き込み 252 万円 (23 台) の支払いとなり、件数では衝突・接触が全体の 70.6%と多くを占めた。

(7) 受託業務関係 (収入保険)

(引受関係)

区分 \ 項目	令和7年度 (R7. 4. 1～R8. 3. 1開始)			
	有資格者数 (顧客リスト)	個人 (経営体)	法人 (経営体)	計
東 部	経営体 1,721	経営体 549	経営体 22	経営体 571
中 部	1,187	394	22	416
西 部	1,029	464	25	489
合 計	3,937	1,407	69	1,476
前 年 実 績		1,371	67	1,438
前年対比 (%)		102.6%	103.0%	102.6%

引受の概況

普及所や JA より新規就農者の情報提供や加入見込農家の紹介を受け、個別訪問を中心に加入推進活動を実施した。その結果、前年度より 38 の増加となる 1,476 経営体の引受実績となった。

(事故関係)

区分 \ 項目	令和6年契約補償 (R6. 1. 1～R6. 12. 1開始)				
	加入経営体数	保険金等 請求経営体数	支払補てん金(積立方式)	支払保険金(保険方式)	計
	経営体	経営体	円	円	円
東 部	537	58	52,600,550	65,213,624	117,814,174
中 部	374	59	84,933,930	121,777,237	206,711,167
西 部	460	90	134,095,925	193,233,965	327,329,890
合 計	1,371	207	271,630,405	380,224,826	651,855,231
前 年 実 績	1,238	307	412,957,871	650,435,943	1,063,393,814
前年対比 (%)	110.7%	67.4%	65.8%	58.5%	61.3%

(つなぎ融資)

令和7年補償	
貸付経営体数	貸付額
経営体 34	円 104,690,000

事故の状況

令和6年は多品目において夏場の高温による生育不良が発生した。果樹類においては、高温による影響とカメムシ等の吸汁害等により収穫量が減少した。ニラ等においても、高温による生育不良により収穫量が減少した。請求件数及び金額については、生姜の販売単価が回復したことにより前年より大きく減少した。